第 276 回昭和の森自然観察会

里山の暮らし「藁を使って生活用品を作ろう」

須田 聰惠（千葉市）

日　時：2014 年 12 月 14 日（日）
参加者：24 名（大人 15 名、子ども 9 名）、指導員 10 名
担当指導員：木嶋惠子、須田聰惠

衆議員選挙投票日、風も無く天気の良い陽だまりの大きなシート二枚に座った参加者は家族連れが多かったです。はじめに担当者から「稲わらと麦わら」についての話を興味深く聞きました。水田で作った稲の収穫が終わるとお米と稲わらになり、人々は昔からこの藁を使って生活や文化に役立ててきたことを担当者から聞きました。機械化で忘れ去られようとしている現在なので、以前は暮らしの中でなくてはならないものだったことを丁寧に説明しました。最後は灰や堆肥にして、自然に戻していた**藁は究極のエコ素材だった！** ことに改めてみなさん感心していました。

昭和の森のビオトープでできた稲わらを使って、物つくりの基本である**「縄を綯う」**ことから始めました。その手順を大きく絵に描き、更に２本取り縄を綯う実演をしました。それでイメージつくりができたのか初めての方々でしたが、思ったよりもきれいに早く仕上げていました。午前の研修で担当者が用意した鍋敷きとお正月飾りのうち、鍋敷きは難しいかもしれないとの意見だったので、みんなで**しめ飾り**を作ることにしました。まず、色々なサンプルを見てもらい意欲を高めました。豪華に三重に挑戦です。これも実演して３束をそれぞれ「押える・右にねじる・押える」で作り、次に２本を左に綯っていきました。３本目が一人では無理だったのでお互いに助け、指導員も午前中に体験したので大活躍でした。綯い終えて丸くして紐でしっかりと止め、その後で、飛び出した藁などを鋏で整理したらきれいな縄目が目立ち、みなさん満足気でした。

松葉や松ぼっくり、南天や万両の実、稲穂などを各グループに用意して飾ってもらいました。完成して余裕のある人は自由に作ってもらいました。コツが分かったので再度挑戦する人、縄の太さで大中小の３つの輪を組み合わせて作る人、縄を長く綯って**鍋敷き**に挑戦する人、そして、上手く綯えないので自分で工夫して３本の藁で三つ編みして三重の輪飾りにきれいにまとめていた子にはみな感心！

＜みなさんの感想＞

自分でしめ飾りを楽しく作ることができて良かった！何十年か振りで藁に触って嬉しかった！いつもの観察会と違うので 12 月は楽しみにしている！来年も～と希望する声も。

親子や夫婦は勿論のこと、初めて会った人達も道具を貸したり、教えたり、なかなか微笑ましい光景が見られました。そして、最後に多くの参加者が指導員と一緒に後片付けをしてくれたことが嬉しかったです。「手作り」の活動は、お互いの力や知恵を出し合い協力していくので、自然と人とのつながりを作っていくのだと思いました。

みなさんは、自分で作ったしめ飾りできっと良いお正月を迎えられたことでしょう。